

MACC^{マツク}通信

Monozukuri Arakawa City Cluster

第23号

2012年12月25日発行

荒川区が進める『MACCプロジェクト』は、荒川区の特徴である多彩な産業集積を活かした、区内企業同士の顔の見えるネットワークの形成を推進することで、荒川区の産業振興(商品開発や販路拡大など)を図ろうとするものです。

「MACC通信」は、この『MACCプロジェクト』に関わるホットな情報をお届けしていきます。

今回は、「MACCセミナー」、「つくば産業フェア出展」、「分科会活動状況」についてご報告します。

MACCセミナー「意見やアイデアを引き出す秘訣」を開催 ～課題解決、新製品・新事業創出を図る～

11月1日に産業経済部研修室で、朝日信用金庫、城北信用金庫、巣鴨信用金庫、瀧野川信用金庫、東京東信用金庫の5信用金庫と連携して、中小企業の重要な経営課題である新製品開発・新事業創出に向けたMACCセミナー「意見やアイデアを引き出す秘訣」を開催しました。本セミナーでは、早稲田大学大学院商学研究科の黒須誠治教授が基調講演し、グループワークを通じて実践的な課題解決の手法を学んだ後、参加企業による交流会が行われました。区内企業の経営者ら約30人が参加しました。

発想を広げ、活路を拓く！



石原久 産業経済部長

冒頭、荒川区の石原久産業経済部長が挨拶し、「平成18年7月にスタートしたMACCプロジェクトは、今年が7年目。年々、活動の幅を広げ、着々と成果をあげている。今後とも地域産業のニーズに即応したきめ細かな事業に一層力を入れていく。今回のセミナーは、厳しい環境に直面している中小企業の活路を拓くヒントを得るのが主旨。自社の強みを引き出し、売上増を図るため、①いまある商品を伸ばす(販路拡大)、②新商品・新サービスを生み出す(新商品開発)、③新たな分野に出て行く(新事業創出)という3つの方向のどの道を選ぶか、発想を広げ、経営に役立ててほしい」と述べました。

【基調講演】

テーマ：『意見やアイデアを引き出す秘訣
～課題解決、新製品・新事業創出を図る～』
講師：黒須誠治・早稲田大学大学院商学研究科教授

私は現在、早稲田大学ビジネススクールで「システム創造思考法」を担当し、作業・工程改善などの案出法や新製品アイデア発想法などについて多数の会社で講演・指導しています。その講演で、「知の資源を発掘する」ための象徴的な事例として取り上

げている、コミー(株)という鏡を作っている会社がニーズをつかんで思わぬ発見をし、急成長した話を、ここでも紹介します。

「お客様がニーズを教えてくれた」会社

コミー(株)は、いろいろな鏡を作っている会社です。ある時、360度回転する鏡を製作しました。用途はお店の展示用。つまり“飾り用”として作ったものですが、それを30個も買っていくお客様が現れました。そのお客様は一体、何のために購入したかと

いうと、それは「万引き防止のためのバックミラー用」とのことでした。

予想していない使用目的に驚くと同時に、お客様にニーズを教えられた思いがしたそうです。その後、コミー(株)は、専門技



講演する黒須教授

術を駆使して、新製品開発に力を注ぎ、より優れた「万引き防止用バックミラー」を開発。さらに改良を加え、「駐車場用バックミラー」も製品化し、死角をカバーするバックミラー製品は受注生産を繰り返してヒット商品となりました。

この事例で、言いたいことは、「ニーズを発見する」ことが、新製品開発の基本だということです。その際は、お客様にニーズを教えてもらうのも1つの方法ですが、それでは偶然に頼りすぎるので、自分でニーズを発見することが重要になります。

概して、これまでの企業は、お客様からのニーズに気を配っていましたが、厳しい経済環境にあっては、企業自体がニーズ(市場)をつくる時代でもあります。では、どのようにしてニーズ(市場)を発見するか。その『ニーズの発見法』こそが、本日のテーマにつながる本題でもあります。

いかにニーズを発見するか？

『ニーズの発見法』の手法の1つが、いわゆる<模倣>です。真似することもニーズの発見になります。かつて日本が米国に真似たのは、米国のビジネスや製品にニーズがあったからです。それから、<マーケティング法>という手法もあります。アンケート調査などでお客様のニーズを探るという手法です。

しかし、私が紹介したいニーズの発見法は、<目的探索法>と<チェックリスト法>です。

<目的探索法>は、一般的には通信販売用カタログなどを使用します。無料で配布される通販カタログから広告商品の目的を読み取り、読み取った目的を広告商品以外の物でできないかを考えてみる。それも自分の技術で商品化できないかを考えてみるという手法です。

例えば、3年ほど前に登場して話題となった、暑さをしのぐ「涼感ジャケット」の場合は、「肌着の内

側に空気が入り込むようにしたらどうか」という発想から「扇風機を埋め込んで空気を入れ込むジャケット」を開発しました。<目的探索法>の手法では、服に空気を入れ込むという仕組み(目的)を見つけ、その目的を達成する方法(製品)を開発するという流れです。製品づくりの目的を明確にし、自分の持っている技術で目的が達成できることを考えて実現に取り組むことが、新製品開発につながるようになります。

「推奨したい」チェックリスト法

もう1つの<チェックリスト法>は、予め設定されたチェックリストを使用し、そこに書いてあるチェック項目にしたがって視点を広げアイデアを生み出していく手法です。

その際の、基本的なチェック項目の第1点は、「既存製品を組み合わせる」ことでヒントを得る手法です。そこから生まれたアイデア(新製品)が「ラジオとカセットを組み合わせたラジカセ」や「ラジオとカメラを組み合わせたラジカメ」です。

第2点は、「既存製品の全部または一部の素材を別のものに変える」手法です。それをヒントに生まれたものに「扇風機の羽根を金属製からポリプロン製に変えた携帯用扇風機」や「昼の素材をいぐさの代わりに弾力性のあるポリプロン製・シリコン製にして、耐久性向上と低価格を実現した」などがあります。

第3点は、「工場用製品を家庭用に、またはプロ用製品をアマチュア用にする」手法です。これをヒントに生まれたのが、「事業所用おしぼり機を家庭用にコンパクト化したおしぼりロボ」や「業務用発電機を家庭用にした小型風力発電機」などです。

第4点は、「ポカ・ミスを起こさない工夫をする」手法です。これには「子どもが靴を左右反対に履くのを防ぐため、間違えないような図柄の絵を描いた」という例があります。このアイデアは工場・事業所でも多様に応用されています。

第5点は、「不平・不満・クレームは宝の山」という考え方です。お客さんからの不平・不満・クレームがあったら、それを徹底的に直すことを考えることが、改良・改善を促進し、新製品開発につながっていきます。

その点では、最近、電車の中で化粧する女性が増えていますが、視点を変えれば、移動用化粧品とか

片手でできる化粧法の開発など、新たな発想の商品開発のヒントがあります。また、大学の教室では飲食が禁止ですが、それを可能にする飲料容器などがあれば重宝がられるでしょう。なにげなく見聞きしている身近な現象の中に、ニーズを発見することが大切です。

オズボーンのチェックリスト法「9つの項目」

それでは、オズボーン（米国の経営コンサルタント）のチェックリストを使って、実際にアイデアを出してみましょう。チェック項目は以下の9つです。

- ①他に使い道はないか（転用）＝「新しい使いみちは」「改善・改良して使いみちは」
- ②他からアイデアが借りられないか（応用）＝「他に似たものはないか」「他のアイデアを示唆していないか」
- ③変えてみたらどうか（変更）＝「意味・色・動き・音・匂い・様式・型を変えられないか」
- ④大きくしてみたらどうか（拡大）＝「より大きく・強く・高く・長く・厚く」「時間・頻度・付加価値は」
- ⑤小さくしてみたらどうか（縮小）＝「より小さく・軽く・低く・短く」「削減・省略できないか」
- ⑥他のもので代用できないか（代用）＝「人・物・材料・素材・製法を代用できないか」「他の素材は」「他のアプローチは」
- ⑦入れ替えてみたらどうか（再利用）＝「要素を取り替えたなら」「他のレイアウトや順序は」
- ⑧逆にしてみたらどうか（逆転）＝「反転・前後転・左右転・上下転してみたら」
- ⑨組み合わせてみたら（結合）＝「ブレンドしたら」「ユニットや目的を組み合わせたら」

この9つのチェック項目は、アイデアを引き出すための“ヒント”を与えるものです。「新たな挑戦をしたいけれど具体的なアイデアが思うように浮かばない」「部下や同僚から意見を引き出すことができない」といった解決策として、ぜひ活用してほしいものです。

【グループワーク】

グループワークでは、参加者を4つのグループに分け、オズボーンのチェックリスト法を使用して、“アイデアを引き出す”体験を実践しました。

題材は、『鞆（かばん）』あるいは『傘（かさ）』。討議に当たって、「効果的なグループワークを行うための4原則」が示されました。

- ①アイデアは質より量にこだわる。
- ②出されたアイデアに対し、「それは現実的でない」などと批判をしない。
- ③荒唐無稽なアイデアを歓迎する。
- ④アイデアがたくさんでたら組み合わせてみる。

それを踏まえて、活発な討議が行われました。



活発なグループワークの様子

グループ討議でアイデア続出

グループワークでは、3グループが『鞆』、1グループが『傘』の題材を選択し、それぞれが新製品開発をイメージしたアイデアを引き出す体験をしました。

『鞆』を題材に選んだグループからは、「用途に応じて形が変えられる鞆」「色・匂いが変わる鞆」「足から履く鞆」「透明な鞆」「ペットが入れられる鞆」「リサイクル可能な鞆」などのアイデアのほか、防災・防犯・非常時型として「ヘルメットや浮き輪・非常食を備えた鞆」「発電機を内蔵し、寝袋にもなる鞆」「ブザー付きや液晶TV付き鞆」「太陽電池付き・ソーラー機能型鞆」など数多くのアイデアが発表されました。



講師のアドバイスを得ながらの討議

一方、『傘』を題材に選んだグループからは、「水をはじき、風を通す傘」「GPS付き傘」「骨なし傘」「雨天だけでなく晴天にも使用できる」「ソーラー機能を持った傘」「筋トレ機能を備えた傘」「ポケットに入り、帽子にもなる傘」などのアイデ

アのほか、「アラーム付き傘」「LED照明付き傘」「暖房機能付き傘」「浮き袋兼用傘」といった防災・防犯型のアイデアも目立ちました。

荒唐無稽なアイデアをばかにするな！

講師の黒須教授は、「ばかばかしいアイデアや、すぐ実現できそうなアイデア、すぐに使えそうなアイデアの中に、画期的な新製品につながるヒントが潜んでいる。笑い飛ばして、見逃がしてしまうケースも少なくない。アイデアを試作してみると、欠点がわかり、新たな発見をする。そこから改良・改善を繰り返して、実用化するという工程になる。その作業を日常の経営の中で習慣づけていくことが大切」と講評しました。

【交流会】

熱いグループワーク討議の後、講師と参加者らの交流会が持たれ、大いに盛り上がりました。



あすめし会、「中小企業総合展」に出展！

平成24年度MACCプロジェクト主体の運営から、自主運営となった“あすめし会”（明日の飯の種をつくる会）が、「中小企業総合展JISMEE2012」へ、任意団体として初めての出展を果たしました。出展に際して紆余曲折の中、会員同士の繋がりも強固となり、頼もしい団体に成長したようです。

今回は、その飛躍する“あすめし会”中小企業総合展出展報告をお届けします。

10月10日から12日まで、東京ビックサイトにて開催された中小機構主催の「中小企業総合展」にはじめて任意団体としてMACCプロジェクトから誕生した“あすめし会”（明日の飯の種をつくる会）が出展を果たしました。

「中小企業総合展JISMEE2012」は、経営革新等に果敢に取り組む中小企業・ベンチャー企業が、自ら製造、開発した新製品、サービス、技術等を一堂に集め展示することにより、販路開拓、市場創出、業務提携といったビジネスマッチングを促進することを目的として「独立行政法人 中小企業基盤整備機構」によって毎年開催されている展示会です。今年の期間中来場者は48,346名（昨年度31,228名）と昨年度を上回る来場者数となり、盛況な展示会となりました。

我々が“あすめし会”は、今年4月からMACCプロジェクト主導の活動から自主運営の任意団体として新たな一步を踏み出しました。中小企業総合展への出展は任意団体としては初めての試みで、任意団体としての出展申請が過去に前例がないこともあり、

対象となる申請書式が無いなど問題は多々ありましたが、事務局である中小機構様に出展の趣旨をご理解いただき、無事申請受理して頂きました。

さて、出展は決まったものの、展示のコンセプトや展示方法を決めなければなりません。展示会の2ヶ

月ほど前から、忙しい日常業務の中、Facebookを活用した連絡網を通して会員の意思疎通を図りました。さらに会員企業の工場に展示スペースを仮設置して、展示物の決定や配置などの検討作業は、

明日の飯の種をつくる会
あすめし会
事業継承@荒川区
テーマは「次の代に繋げる」
俺たちに明日はある

事業後継者が、互いに刺激しあい、ともに学び、後継者としての気概や資質を高めあう組織。荒川区経営支援課「MACCプロジェクト」により組織された。「明日の飯の種を作る」「明日の社長を作る」が旗印。厳しい時代に事業を継承し、新たな時代の荒波に向けて船を漕ぎ出す若き経営者たちの熱き魂のぶつかり合い。メンバー全員の英知を集め、生き残りをかけて新たな事業展開を模索しながら、この難局を乗り越えるべく奮闘中である。

参加企業
旭工業所
旭アポロ製作所
旭工務店
三栄印刷機
福ストロング
福タカハシ
福東京ベル製作所
福トネ製作所
福日興エグゼクティブ製造所
福箱田織物工場
花嫁わたぬい
東広式プラスチック工業
東マツダ自転車工場
ABC税理士法人
小倉マシナトオフィス

お問い合わせ先
MACCプロジェクト事務局
荒川区産業経済振興課
03-3802-4683

あすめし会
事務局 旭日興エグゼクティブ製造所
03-3802-4683

日常の業務が終了したあとに会員が集合して行い、議論は深夜に及ぶこともあったとのこと。

展示会期間中は荒川区MACCプロジェクトも全面協力をさせて頂き、説明員としてMACCコーディネーター・産業経済部経営支援課産業活性化係総出でサ



ポートさせて頂きました。

“あすめし会”という特異?な名称から興味を引かれたのか、官公庁関係、関連企業、マスコミ関係、金融機関など様々な方々にお越し頂きました。

来訪されたお客様に対して承継問題や展示物の説明など、会員企業の皆さんが、汗だくになって説明されている姿が印象的でした。また、会員企業に対する新たな商談の機会の紹介も数多く問い合わせがあり、展示会終了後も問い合わせの波は続いているようです。

“あすめし会”の生みの親である豊泉シニアコーディネーターからは、今回の出展にあたって何かと心配の声が挙がっておりました。

しかし会員企業のみなさんの展示企画から展示物の準備、出展期間中の運営など積極的に協力し合いながら取り組まれた姿勢を見ると、結果的には大成功の展示会出展でした。

グローバルビジネス研究会活動報告 増田辰弘氏が講演「アジアの実態と進出企業の最前線情報！」

第3回グローバルビジネス研究会が平成24年10月25日（木）産業経済部研修室で行われました。今回は、法政大学大学院イノベーション・マネジメント研究科兼任講師の増田辰弘氏が「アジアの実態と進出企業の最前線情報！今、儲かっている会社の成功ポイントはここにある」と題して、アジア進出企業の最前線情報を講義しました。

アジアの流れと日本企業の経営環境

講師の増田氏は、「今アジアはどう動いているのか？」と題し、ベトナム・スリランカ・済南（中国）と3ヶ国の滞在報告を述べました。

増田氏は「ベトナムに進出した中小企業の社長が、日本では暗い顔をしているのに、ベトナムに行くと実に生き生きとした表情になっていた。」と印象を述べ、資金が無いなら無いなりに知恵と工夫でアジア展開が出来る典型的な企業の紹介をし



講演する増田辰弘氏

またスリランカにおいては、内戦終結後、労働集約産業は峠を迎え、少子化が進む豊かな社会を築きあげている。それと比較して、中国経済に対しては

減速感を否めない。」と感想を述べました。

取材に訪れた中国山東省済南（じーなん）市では、工事中のマンションを見ることはなく、済南市屈指の繁華街にあるショッピングセンターも入居店舗がない状態でありました。これは、ヨーロッパ経済の不振から輸出と、不動産投資を2本柱とする中国経済の大きな変わり目であり、世界経済の変わり目である。済南市のような所得の低い地域こそ日本企業は、ビジネスモデルを変える必要に迫られるのではないかと危惧しました。

また日本市場の流れは、収縮する地域経済、高度化する商品・サービス、激化する競争を挙げ市場戦略は非常に厳しいものになっており、加えて創業者のハングリー性の低下、社員のスマート化（草食化）、業界社会の高齢化が早急な課題となっていると問題提起しました。

台湾企業の経営モデルから学ぶこと

欧米・日本・韓国企業の経営モデルまでは「ブランドを作って売る」というビジネスモデルでありました。しかし、台湾企業はその経営モデルをガラッと変えて「作る専門」という形を作り上げました。また、台湾企業の経営モデルが世界経済の変化に素早く対応できた理由として、

- (1) オーナー型の経営手法である。
- (2) 日本企業にはなく、中国企業でも出来ない経営モデルを構築した。
- (3) 中国との独自の人脈づくり。
- (4) 国内マーケット(2300万人)が小さい。

などが挙げられます。

日本企業がアジアで生きていくための ビジネスノウハウ

最後に増田氏は、アジアで成功している日本企業の事例をいくつか紹介しました。そしてアジアで生きていくためのビジネスノウハウ(最短・最速でアジ

ア投資を成功させるノウハウ)として、(1)ベテランの日本人を現地で探す、(2)投資額は概ね相場の10分の1で良い。(3)日本のビジネスモデルをそのまま使用せず少し変える。(4)社内から手を挙げさせる。(社員に発言権を持たせる。)などを示唆しました。

また、「日本社会は戦後の長い発展の中で、政治も、行政も、企業も、アジアの社会に比べて正確にその位置を確認する能力が落ちている」と発言したのが印象的でした。



第2おすすめし会活動報告 工場見学会((株)マツダ自転車工場)

今回は、10月16日(火)に行われたマツダ自転車工場(荒川区東尾久)への工場見学のレポートと、11月22日(木)に行われた定例会の様をお伝えします。

11月22日(木)の定例会では、「トミー経営塾」の第2回目として「工場改革と人事改革」と題した講義に会員一同、真剣に耳を傾けていました。

I 10月度企業視察

訪問先企業：株式会社マツダ自転車工場 (<http://www.level-cycle.com/>) 荒川区東尾久1-2-4

日時：2012年10月16日(火)15:00～17:00 交流会
(17:30～19:30)

(株)マツダ自転車工場の本社・工場は、三河島駅より徒歩5分と至極交通の便が良い立地です。今回の第2おすすめし会の会員企業訪問はトネ製作所、電光工業に続いて、第3弾となりました。



(株)マツダ自転車工場
専務取締役 松田 裕道氏

業務内容は、オーダーメイド自転車を中心に各種

自転車の開発、設計、デザイン、製作、販売、メンテまで一貫して行っています。

定刻に訪問すると早速社長から歓迎の挨拶があり、続いて、松田専務より企業概要・沿革・業務内容・モノづくりの特徴等と詳細な説明がなされました。訪問直前にフランスのミシュランとの提携事業のニュースが流れ、益々注目度が上がりました。その後、工場見学となったが、特に社長直々の溶接の実演には、見学者からため息が漏れていました。熱心な見学の後、質疑応答が行われ、今回から採用された「企業訪問ネットワークシート」の記入も熱心に行われました。



このシートには、訪問会員から訪問先企業についてのアドバイスやアライアンスを伝え、ネットワーク形成を促進する事を目的としています。

内容は、①訪問企業の強み、②同弱み、③訪問者と訪問企業とのアライアンス（協力）についての意見です。

今回の視察で多かった意見は、

- 1、溶接技術のすばらしさ
- 2、企業・商品のブランド力
- 3、溶接技術の継承
- 4、生産の協力
- 5、溶接技術の教授希望

等が際立ちました。これらの貴重な意見は、担当コーディネーターがまとめて、後日、マツダ自転車に届けました。

Ⅱ 11月度例会

第2あすめし会は、11月度は通常例会である。会員全員の出席で下記のように行われました。

テーマ：「トミー経営塾」

ケーススタディ(2)「工場改革と人事改革」

講師：MACCシニアコーディネーター 豊泉光男

日時：2012年11月22日(木)17:00～19:00 交流会：19:00～20:30

「トミー経営塾」のテーマは「経営後継者のための経営の基本と勘所」として、5回を計画しました。



【第1回】「経営理念」何のために経営するのか？経営の背骨。

【第2回】「工場改革と人事改革」工場の生産性向上と現場のモチベーション向上は？

【第3回】「マーケティング改革」儲かるモノづくり、新事業開発。

【第4回】「財務経営」経営計画書の作成、運用。

【第5回】「成果を出す経営」熱い想いと算盤。を計画しています。今回は第2回の「工場改革と人事改革」をケーススタディとグループワークを通して会得しました。

事例では、貴方が新任の社長になって就任することになりました。

課題解決のために新任社長はどのような対策を行

うべきでしょうか？

課題は、

- ①新卒・学卒・女子パートの採用、定着には、どのような事を行うべきか。
- ②工場の職場環境は、暑い、水蒸気、冷却水、騒音等があるが、もっと良い職場環境にするには、どのような方法をとるべきか。
- ③生産のボトルネックを改善するにはどのような対策をとるべきか。
- ④製造部門での現場や職場の自主的改善は、どのように導入して、どのような方法で普及していくべきか。
- ⑤給料の支払い方法はどのような方法があり、今後はどのように改善すべきか。
- ⑥従業員が納得する昇給・賞与の決め方とはどのような方法をとるべきか。
- ⑦従業員のやる気をだすには、どのような方法を考えるべきか。
- ⑧従業員の心を一つにまとめるには、どのような工夫を考えるべきか。

グループワークでは、会員とサポーターを含めて活発な意見が飛びかい、普段発言の少ない人からも多くの提案がなされました。

今後はテーマが異なるが、会員後継者にまず自信を持って経営をしてもらうことを目標に進めていきたいと考えます。どうぞ、引き続き積極的にご参加下さい。



「第2あすめし会」では、随時会員を募集しています。自社の新商品・新事業開発に意欲のある若手後継者の方をお待ちしております。ご質問・入会のご希望は、

MACCプロジェクト事務局
シニアコーディネーター 豊泉まで
まずはお電話をお願い致します。
(03-3802-4683)

第9回つくば産業フェア MACCプロジェクト出展報告

10月20日（土）、21日（日）“つくば市”にある「つくばカピオ及び大清水公園」において、“つくば市制25周年”を記念して「第9回つくば産業フェア&農産物フェア2012」が開催され、2日間で約44,000人の来場者がありました。

当日は朝から晴天で、午前10時から会場の正面入口にてオープンセレモニーが行われ、つくば市の市原健一市長の主催者あいさつに引き続き、荒川区長の代理として三ツ木晴雄副区長が、これまでの荒川区と“つくば市”との深い繋がり、交流実績などについて来賓のあいさつをしました。

開催内容では、ロボットの街、パンの街、元気な街の“つくば市”から98団体の企業等が出展し、ヒューマノイドロボットのデモステージをはじめ、市内の元気な事業者による、技術・製品・サービスの紹介や特産品・名産品の展示即売が行われました。

また、“つくば市”と交流のある“千代田区”や



“足立区”、“埼玉県八潮市”、“埼玉県三郷市”、“つくばみらい市”などの8団体のTX沿線自治体や関連団体等も出展し、まちのPRや伝統工芸の紹介、沿線グルメ・名物の紹介等のさまざまな展示がありました。

荒川区からは、例年に引続き有限会社 徳栄商事(荒川区荒川1-58-6 代表取締役 徳本和雄)が出展し、都電荒川線グッズを販売したほか、株式会社 テクノキャッチ(荒川区東尾久4-39-7 代表取締役 古内きぬ枝)が初めて出展し、aicatch® シリーズの緊急携帯便利袋、防災絆手帳を販売しました。また、MACCプロジェクト製品や区の観光についても紹介し、多くの来場者に荒川区の魅力を伝えることができました。



2日間で多くの来場者がブースを訪れ、ロボットから農産物まで、選りすぐりの農・商・工を満喫する地域間交流の場となりました。

金融円滑化法終了に伴うご相談を お受けします！

(事業再生計画のご支援)

高度特定分野専門家派遣事業

平成21年12月より実施されてきた「中小企業金融円滑化法」が、平成25年3月31日で終了します。これにより、多くの中小企業が資金繰り対策に追われることが懸念されております。

荒川区では、このような区内中小企業が抱える様々な課題を迅速に解決するため、税理士・弁護士・中小企業診断士等各分野の専門家を無料で派遣しています。

その他生産管理、知的財産権、省エネ、工業デザイン等、高度な知識を必要とした様々な問題解決にもご利用いただけます。“専門家に相談したいが、いきなり相談に行くには敷居が高い”と躊躇される方、まずはご相談ください。

◆支援対象者◆

- ・中小企業基本法第2条第1項に規定する中小企業者で区内に本社を有する者
- ・区内に本社を有する中小企業者で構成される団体

◆相談分野◆

生産技術、技術開発、企業会計、税務、事業継承、知的財産権、省エネ、IT関連、デザイン、マーケティング、労務管理、国際ビジネス

◆利用者負担◆

無料 ※但し、専門家の派遣先が遠隔地の場合、専門家が派遣先までに要した実費相当の交通費を依頼した企業に負担していただきます。

◆派遣回数◆

1企業または1団体につき、同一年度内に10時間まで

◆申請方法◆

専門家の派遣の前に、区職員がお話を伺いますので、経営支援課 産業活性化係(03-3802-4683)までご連絡ください。

MACCコーディネーター TOMMYの部屋 VOL.21

トミーがまだ若き少年であった、16歳の頃の恩師であるK教諭、そして生涯の恩師と仰いだ「一倉定(いちくら さだむ)」氏から学んだ「守・破・離」の教えは、今現在もトミーの中に脈々と息づいています。この教えを皆さんにも伝授できたらとトミーは願っています。

☺ 「荒川「守・破・離」物語」 ☺

MACCシニアコーディネーター 豊泉光男

トミーがまだまだ純情16歳のある日。時は、木枯らし吹きつける年の暮れ、場所は、東京都下の進学高校の長い廊下の片隅。暖かい教室の中では、受験生の勉強の熱気が伝わってくる。一方、外の廊下は、凍えるように寒い。少年は、一人廊下に立ちすくんでいる。「何で、俺が廊下に立たされなきゃならないんだ。本当に頭にくるよ。一体全体俺が何か悪いことしたのか？」と一人ブツブツ言っている。国語担当のK教師から「お前は、守・破・離が解るまで、廊下に立っている！」と言いつつ放たれてそれっきりである。授業終了のベルがなると一斉に生徒が廊下の少年



の方に向かってくる。「おい、どうしたんだよ。大丈夫か？」と言う友もいれば、「何だ。お前、先生のお気に入りだと思ったらやっぱりできが悪いんじゃないか。みっともねえな。」とあざ笑う同級生もいるものだ。後ろから国語担当のK先生が来た。「職員室へついて来なさい。」と打って変わって柔らかな口調でうながした。K先生は大きな職員室の片隅の椅子に私を座らせると呟いた「お前だから立たせたんだ。解るか。確かに形容動詞の変格活用はお前の覚え方でも答えは正解だ。

しかし、物事の基礎というのは、我流で覚えてはいけない。「守」最初は、師匠の完全な模倣から入り習得する。数年はかかる。「破」習得した基本から新しい自分なりの道を探していく。また数年はかかる。「離」自分なりの道確立して、師匠の元から自立する。さらに数年かかる。それをおまえにわかって欲しくて、廊下に立ってもらった。もう、

帰っていいよ。」と太陽のような暖かい言葉をかけてくれた。何十年も前の話であり、他愛もない出来事でもあった。K先生は、その後、「松尾芭蕉」の研究を続け、大学教授になられたと便りで聞いた。その後もトミーは成長の節目でこの「守・破・離」に出会うことになった。2度目は、茶の湯に興味を持った時、千利休の茶道の神髄からこの教えを学んだ。3度目は、

水道橋の能楽堂での能の世阿弥の神髄に触れた後、何とこの教えが記されていた。そして、4度目はマネジメントの世界に入って、「企業経営のあるべき姿」を求めていた時である。あるセミナーで偶然出会い、以後長く恩師として多くを学んだ、経営コンサルタントであり当時、社長専門のコンサルタントとしては、日本では“神様”と言われた程有名だった一倉定先生である。私は、この師から企業経営における「守・破・離」を学ぶ事となった。今では、この教えは、私の経営計画書に、以下のように記されている。

- 1 「守」とは、師匠の教えをそっくりそのまま「守る」ことである。全て、師匠の教え通りに行う。それ以外のやり方をしてはいけない。最初は、師匠がどのような修練のもとにどのような考え方、どのような態度、姿勢を持っているかをそっくり学ぶ。まずは、教えに反せず忠実に学ぶ事が基本である。
- 2 「破」とは、教えを自分のものにした上で、自分の新しい工夫と努力を加え、教えから少しずつ抜け出して、破ってゆく段階。石の上にも3年、「守」から「破」に行くには時間と努力がなければ到達できない。

守 破 離

書：荒川氏

3 「離」とは、自分の工夫と努力によって、師匠の教えから脱皮して、さらに努力、研鑽を重ねて自らの境地を築きあげることである。

荒川区の若手後継経営者の皆様に接し、「あすめし会」創設、トミー塾を開設していくにあたって、この教えは現在も小生の中に脈々と生きている。皆様方も“経営に王道なし”と申しますが、良い師

(メンター)に巡り合い、良きアドバイスを受ける機会が訪れる事を心よりお祈り申し上げます。「良き師を得るには、良き伴侶を得るより難しい。」とも言われますが、素直に受け入れる心があればきっと実現できそうですね。

では、良いお年をお迎えください。

第7回MACCプロジェクトフォーラム

産・学・金・公 ネットワーク構築会 ～連携すれば文殊の知恵～

荒川区によるMACC (Monozukuri Arakawa City Cluster) プロジェクトでは、産・学・金・公の『顔の見えるネットワーク』を構築し、その知恵と技術を集結することで更なる産業の活性化を目指しています。

今回のフォーラムでは、多数の支援機関のブースを順に回り各機関の説明を受けることで、参加者の皆様との幅広い『顔の見えるネットワーク』構築を更に推進していきます。

多数の支援機関とのネットワークを一度に構築できるチャンスです。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

- 【開催日時】 平成25年1月23日(水) 13:30～17:45(交流会:18:00～19:30)
- 【会場】 サンパール荒川 3階 小ホール(荒川区荒川1-1-1)
交流会: 荒川区産業経済部4階研修室A(荒川区荒川2-1-5 セントラル荒川ビル4階)
- 【対象】 区内外・経営者等を問いません
- 【定員】 50人(申込み順)
- 【締切】 平成25年1月18日(金)
- 【費用】 無料(交流会参加の方は2,000円)
- 【その他】 申込み・お問合せは、荒川区産業経済部経営支援課
TEL:03-3802-4683 FAX:03-3803-2333 電子メールアドレス macc@city.arakawa.tokyo.jp

- | | | |
|---------|---------------------------|----------------------|
| 【プログラム】 | 13:00～ 受付開始 | 【出展・後援機関】 |
| | 13:30～13:40 開会挨拶(荒川区長) | ○ 荒川区しんきん協議会 |
| | 13:40～13:45 MACC感謝状贈呈式 | ○ 荒川区中小企業経営協会 |
| | 13:45～14:15 MACCの活動・新製品紹介 | ○ (一社)コラボ産学官 |
| | 14:15～14:30 休憩 | ○ (公大)首都大学東京 |
| | 14:30～17:15 ネットワーク構築会(※) | ○ (独)中小企業基盤整備機構 関東本部 |
| | 17:15～17:45 ブース自由廻覧 | ○ 東京商工会議所 荒川支部 |
| | 18:00～19:30 交流会 | ○ (地独)東京都立産業技術研究センター |
| | (※)ネットワーク構築会では、グループに分かれ、 | ○ 日本政策金融公庫 |
| | 全ブースを回ります。(各ブース15分程度) | ○ (独)日本貿易振興機構(ジェトロ) |
| | | 関東貿易情報センター |
| | | ○ (国大)山形大学工学部 |

<発行>

荒川区産業経済部経営支援課産業活性化係 MACCプロジェクト事務局

〒116-0002 東京都荒川区荒川2-1-5 セントラル荒川ビル3階

TEL:03-3802-4683 FAX:03-3803-2333

E-mail:macc@city.arakawa.tokyo.jp URL:<http://sangyo.city.arakawa.tokyo.jp/macc/>